

4.都市交通政策の方向性の検討

4-1 都市交通シナリオの比較検討

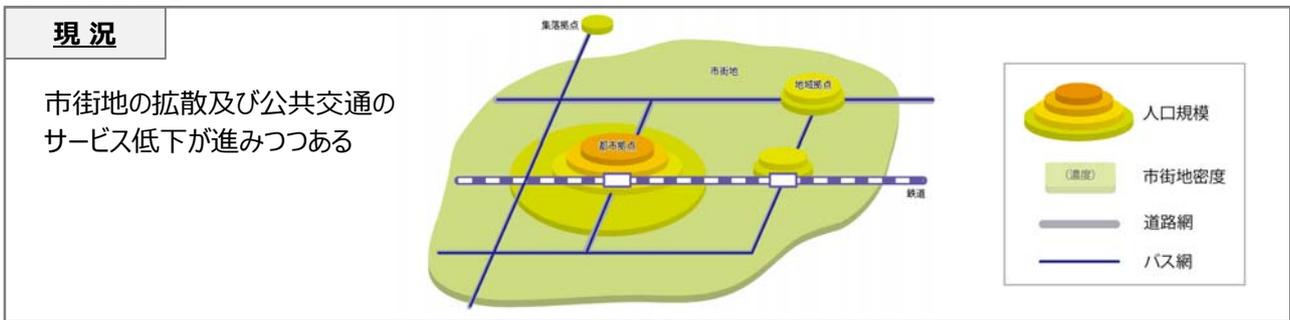
(1) 検討の趣旨

- 計画課題の解決に資する交通体系の基本方針の設定に向け、都市交通政策の大きな方向性を判断することを目的に、比較シナリオを設定し「コンパクト+ネットワーク」の推進が本都市圏にどれだけ有効かを確認しました。

(2) 比較シナリオの基本的な考え方

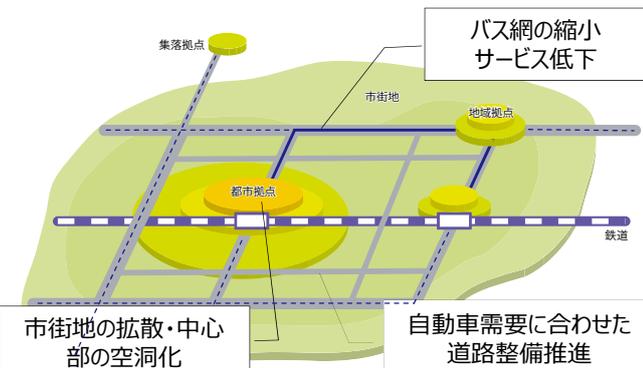
- シナリオの構成要素は都市構造（人口配置）と交通施策（幹線系）の2つが中心
- 計画実現のレベルより、極端なシナリオとすることで施策感度を適切に把握
- 人口配置シナリオは「現況推移型構造」と「拠点集約型都市構造」の2パターン
- 交通施策シナリオは「道路整備重視型」と「公共交通サービス集中型」の2パターン
- 歩行者系や観光交通計画については、需要予測モデルに反映できないことに留意

【比較シナリオ】



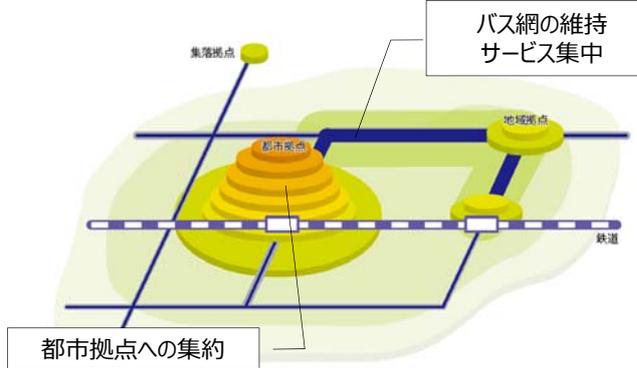
シナリオ① 現在の人口推移（低密度化）のままで 自動車依存に対応するための道路整備を促進

- 都市構造：現況推移型都市構造
- 交通施策：道路整備重視型
フルネット型道路整備 + 公共交通網の縮小・サービス低下



シナリオ② 中心部の都市機能集積拠点への人口集約に 合わせた公共交通サービス強化を推進

- 都市構造：拠点集約型都市構造
- 交通施策：公共交通サービス集中型
事業化ネット型道路整備 + 公共交通網の維持・サービス集中



(3) 評価指標の設定

- 各シナリオにおける交通状況（混雑度、アクセス等）を評価するため、経済面、社会面、環境面から評価指標を設定しました。

経済面 | 都市活力の向上、中心部の拠点強化、都市運営の効率化
 社会面 | 移動手段の確保、安全・安心な交通体系の確立
 環境面 | 環境にやさしい交通行動の実現

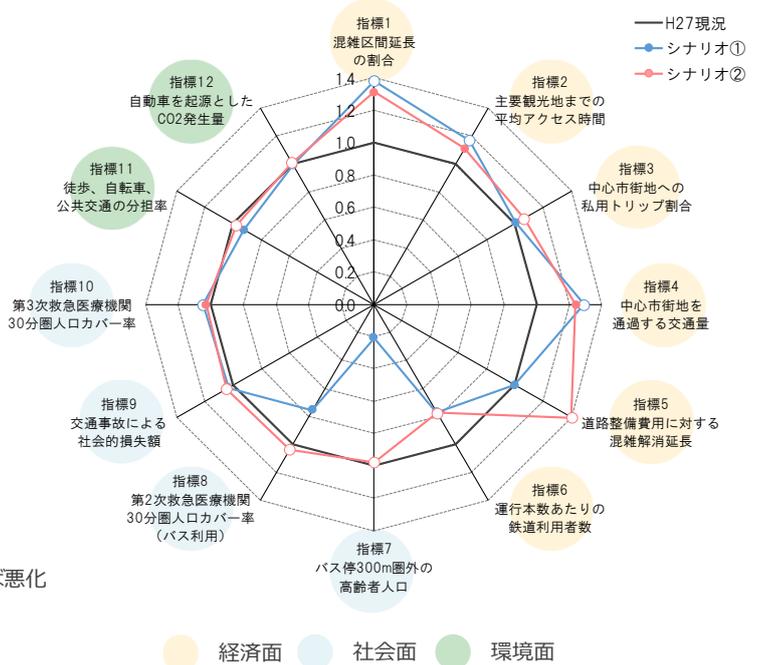
【比較シナリオの設定条件】

		シナリオ① (現況推移型都市構造・道路整備重視型)	シナリオ② (拠点集約型都市構造・公共交通サービス集中型)
交通施策	都市構造 (人口配置)	<p>シナリオ① (現況推移型都市構造)</p> <p>現況推移型都市構造</p> <ul style="list-style-type: none"> 各ゾーン人口のトレンド推移 中心部人口の人口減少継続 	<p>シナリオ② (拠点集約型都市構造)</p> <p>拠点集約型都市構造</p> <ul style="list-style-type: none"> 各市町都市機能集積拠点、基幹公共交通沿線地域への人口配置 (コーホート法による周辺地域転入人口の中心部上乘せ)
	道路	<p>フルネット</p> <p>事業中区間 + 都市計画道路未整備区間 + その他計画区間</p> <p>整備延長 : 約282km</p>	<p>事業化ネット</p> <p>事業中区間 + 10年以内整備計画区間</p> <p>整備延長 : 約144km</p>
	公共交通	<p>公共交通網の縮小・サービス低下</p> <p>バス運行台キロ : 約110百台km</p>	<p>公共交通網の維持・基幹バス路線へのサービス集中</p> <p>バス運行台キロ : 約304百台km</p> <p>鉄道新駅設定</p>

4-2 都市交通政策の大きな方向性

(1) シナリオの比較結果

- 多くの指標でシナリオ②が優れる結果となりました。
- 指標1（混雑解消）や指標2（広域アクセス）、指標4（通過交通）など、都市圏内外の交流・連携に関する指標はシナリオ①が優れる結果となっています。
- 都市交通政策の大きな方向性としては、シナリオ②を基本とし、足りない部分の補完を図ることとします。



※現況を1.0とし、1.0より大きくなれば現況より改善、小さくなれば悪化することを示す
 ※より改善効果が高いシナリオを白抜き丸印(○)としている。

(2) 計画課題に対する考察

① 拠点集約型都市構造の実現に向けた土地利用やまちづくり施策と交通施策との連携強化

- シナリオ②の結果より、拠点集約型都市構造の実現に向け、中心部や地域生活拠点への拠点集約とそれに合わせた公共交通サービスの強化が求められる。

② 過度な自動車依存型の交通体系からの脱却と環境に優しい交通行動への誘導

- シナリオ②の結果より、公共交通の利便性促進と拠点集約により、過度な自動車利用を抑制し、公共交通等の環境負荷の小さい交通行動への転換が見込まれる。

③ 都市圏内及び都市圏外も含めた広域的な連携の強化と円滑な道路交通体系の実現

- シナリオ①の結果より、道路整備の推進により混雑解消が見込まれ、都市圏外との交流拡大等が期待できる。
- 一方で、道路投資に対する整備効果は小さく、現在ある道路ストックの機能を最大限高めるような、効率的な道路整備の推進が必要である。

④ 良好な自転車利用環境創出によるマルチモーダルな交通環境の実現

- シナリオ②の結果より、公共交通の利便性促進と拠点集約により、過度な自動車利用が抑制され、自転車利用者の増加が見込まれる。

⑤ 高齢者の安全・安心・快適な移動手段の確保に向けた地域公共交通体系の拡充

- シナリオ②の結果より、公共交通の利便性促進により、移動不便者の増加を抑制できることが期待でき、バスによる第2次救急医療機関へのアクセス向上も見込まれる。

⑥ 観光客受け入れ態勢の強化と長時間滞在を促す交通環境の実現

- シナリオ①の結果より、広域交通拠点から主要観光地へのアクセス時間が短縮され、受け入れ態勢が強化されるほか、混雑解消による周遊性向上が期待できる。

(3) 都市交通政策の大きな方向性

- 都市構造 | 拠点集約型都市構造
- 道路網 | 拠点集約型都市構造に合わせた道路網（事業化ネット+a）
- 公共交通 | 公共交通の利用転換に向けて実効性のある施策の検討